

今こそ外交を ウクライナの平和への嘆願

ローザ・ルクセンブルク財団と国際平和局

2024年8月31日、ベルリン

[Diplomacy Now! – Rosa-Luxemburg-Stiftung \(rosalux.de\)](https://rosalux.de)

ヨーロッパと世界の平和のための首尾一貫した、普遍的で国際的な外交的イニシアチブを求めるこの嘆願に署名した私たち、政治活動家、知識人、市民は、次のことを確信しています。

ウクライナでの流血と破壊を終わらせなければなりません。私たちは、ウクライナの人々と、この戦争のすべての犠牲者に連帯します。彼らにはできるだけ早く平和と復興、自由を得る権利があるからです。しかし、一つははっきりしていることがあります。それは、交渉なくして、平和も復興も自由も実現しないということです。国家間の戦争が明確な勝利か敗北で終わるのは、わずか20パーセントであり、その場合でも、多くは何年も経ってからでないと終わらないのです。したがって、市民社会と国際社会はあらゆる努力を払って、休戦とそれに続く恒久的な平和のための交渉への道を切り開かなければなりません。

戦争中の早い段階での交渉は終わり、それ以来、ロシア政府もウクライナ政府も、捕虜交換や農産物の輸出のほか以上には、交渉する意思を示していませんが、たとえそうであっても、暴力の停止と和平のための交渉を仲介することはできるはずで、ウクライナとロシアの両政府が自分で交渉のテーブルにつくか、あるいは血なまぐさい消耗戦に巻き込まれ疲れ切った人々が交渉を強いるか、いずれにしてもそれを待つだけでは十分ではありません。ドイツ、ヨーロッパ、そして西側諸国の私たちは、戦況を一機に変えるほどの兵器を次に提供するかを議論することにはもううんざりしています - 私たちが欲するのは、和平交渉を実際に促進するのを西側政府がどうやって支援できるか、その方法を開発することです。

中国やブラジル、アフリカ、その他の国々が、紛争当事者を戦争終結に動かすためにだした外交的イニシアチブを取り上げるのは重要です。私たちは西側諸国の政府に圧力をかけなければなりません。彼らはいま、ウクライナの人々に真の連帯を示すことなく、中国とロシアとの新たなブロック対決への道を開くことに夢中になっています。

周知の通り、国際的な左翼のなかには、現在の戦争に対する見方にかなりの違いがあります。それでも私たちは共通の立場は可能だと考えます。それは団結して交渉をよびかけ、我々の政府に武器ではなく外交に力を入れるよう圧力をかけることです。なぜなら平和と自由、無数の命、そしてウクライナとロシアの民主的な展望が危機に瀕しているからです。私たちは、さらなる軍備強化や新たな軍国主義的な冷戦の考え方なしに、どうやってヨーロッパの平和と安全を確保するかという問題を取り組まなければなりません。社会正義、気候変動、民主的参加という人類の歴史的課題に対処するために、私たちは今日行動し、新たなブロック対立を防がなければなりません。ウクライナでの戦争を終わらせ、平和を生み出すことが、その出発点です。（了）

【翻訳チェック 田中 靖宏】